

腸炎の診断はなぜ難しいのか？

同じ疾患でも個人差があり、同じ個人内でも時間経過で変化する

潰瘍性大腸炎を例にして考えてみるとわかりやすい(図1)。腸炎の活動性炎症の内視鏡像と言っても、ごく軽い粘膜発赤のみのものから、浮腫が目立つもの、粘膜出血が目立つもの、粘液の付着が目立つもの、びらんや潰瘍を呈するもの、などさまざまである。

また、潰瘍性大腸炎では再燃、寛解を繰り返す患者が多い。再燃時と寛解時の内視鏡像がまったく異なるのは当然のことだが、再燃時の内視鏡像が初発時や前回の再燃時と異なる場合もしばしばある。さらに、重症度が異なれば内視鏡像が異なってくるのは当然であるが、同じような臨床的活動度でも内視鏡像がまったく異なることもしばしば経験する。罹患範囲についても同様に、患者ごとに直腸炎型、左側大腸炎型、全大腸炎型と異なり(図2)、再燃の度に罹患範囲が変わっていくこともある。

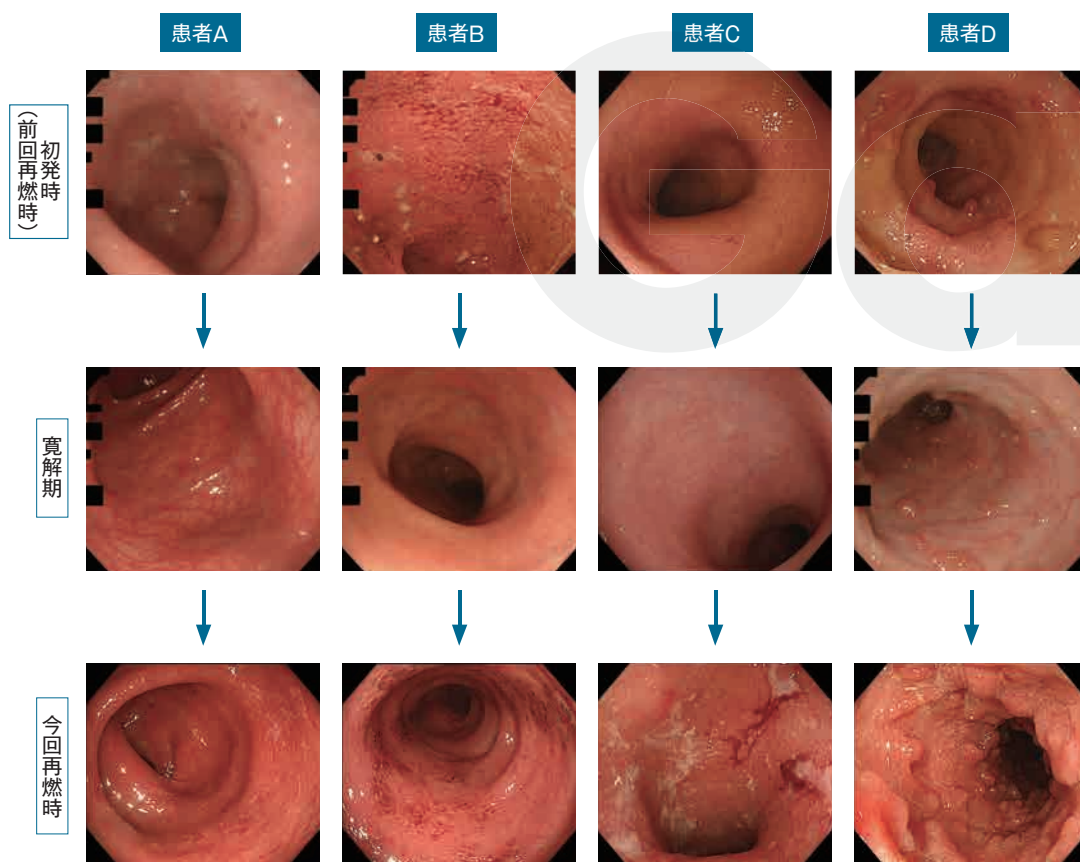


図1 潰瘍性大腸炎の内視鏡所見の個人差と経過による変化
患者ごとに内視鏡像が異なり、同じ患者でも所見が変化していく。

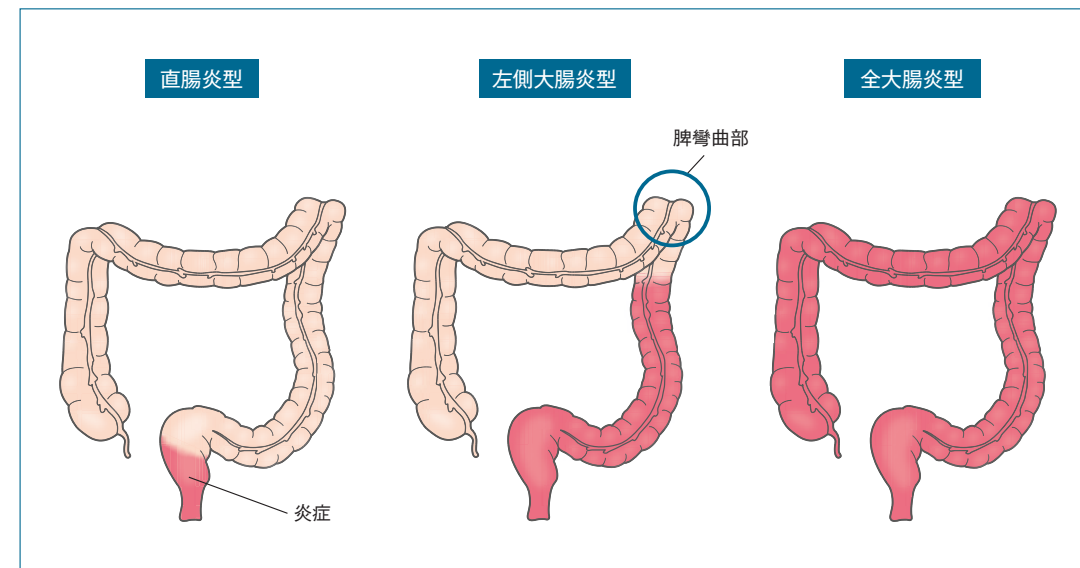


図2 病変範囲による潰瘍性大腸炎の病型分類

直腸炎型：直腸に病変が限局している。

左側大腸炎型：脾彎曲部を超えずに病変がある。

全大腸炎型：脾彎曲部を超えて口側まで病変が広がっている。

虚血性腸炎も虚血の程度や発症からの時間経過で内視鏡所見がかなり変化することが知られている。筆者の施設では、亜急性期のびらんを伴う縦走傾向の粘膜発赤所見をみかけることが多いが、これは発症後半日～1日程度経た後に内視鏡検査を行うことがほとんどであるため、その時期の虚血性腸炎の内視鏡像をみているからである。

もっと急性期に内視鏡検査を行うと浮腫が強く、血豆様の出血斑が出現するのが知られている。逆に、もっと遅い時期ではすっかり治ってしまい腸炎の存在すら確認できないか、または瘢痕(時に狭窄を伴う)のみとなっていたりする。

感染性腸炎に至っては、典型像もはっきりせず、その多くは短期間で治癒してしまう。

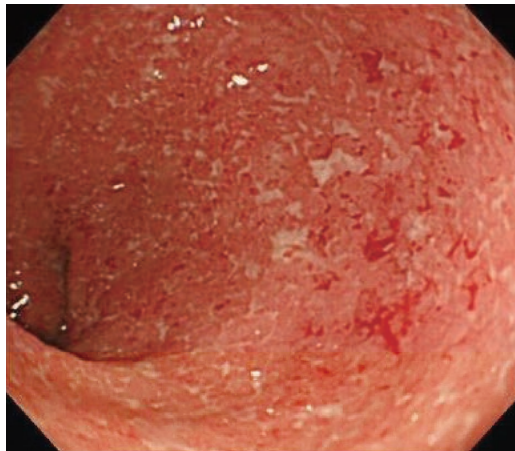
一方、大腸の他の疾患や他の内視鏡領域を考えてみると、個人差による多様性はさほど大きくなく、所見が短期間ではあまり変化しないものがほとんどである。内視鏡は癌などの腫瘍の診断や治療に威力を発揮するツールであるが、多くの腫瘍はさほど形態に多様性はない。胃癌はベースに胃炎があることが多いため、やや形態に多様性があるものの、IIaやIIcなど比較的単純に分類可能である。

大腸では、pit pattern診断などに細かい点はあるものの、多くの腫瘍性ポリープや大腸癌の形態はいくつかの典型例に分類され、個人差はほとんどない。また、長い期間を経れば進行したり形態が変わったりするが、数カ月程度のスパンではあまり変化がないことが多い。炎症でもヘリコバクター・ピロリ関連の胃炎では、除菌治療の前後を除き、短期間に変化するものではない。

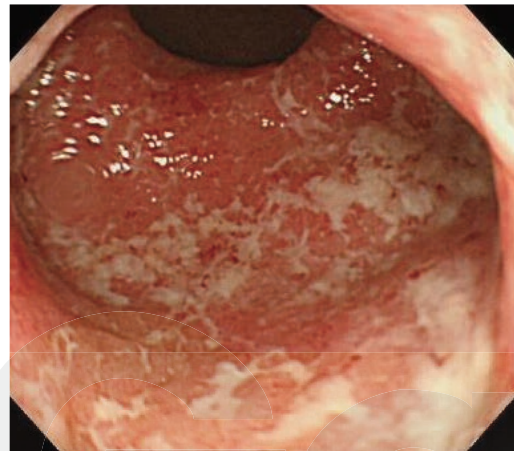
1-1 潰瘍性大腸炎（初発例，軽症～中等症例）

Key Words

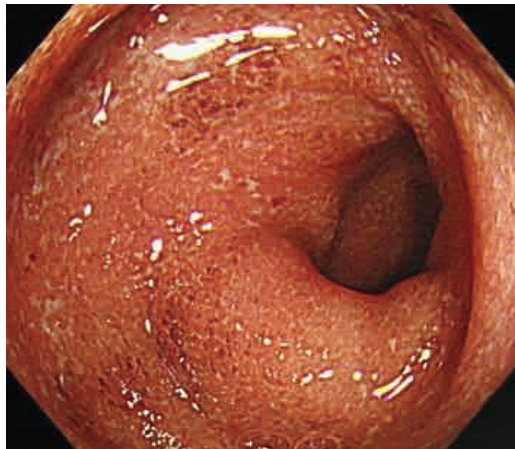
直腸から連続性 / 粘液・浮腫・血管透見消失 / 下痢止め無効



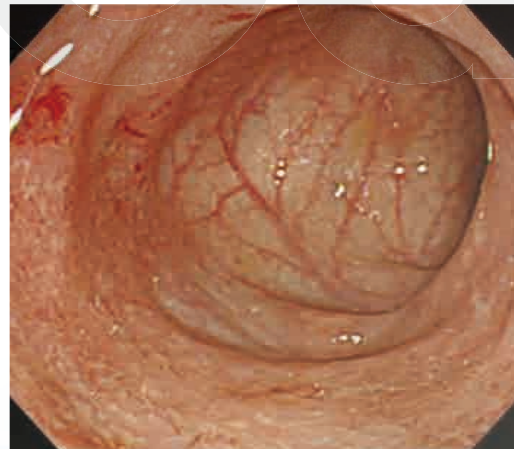
1 発赤・粘液付着・接触出血のみられる典型例



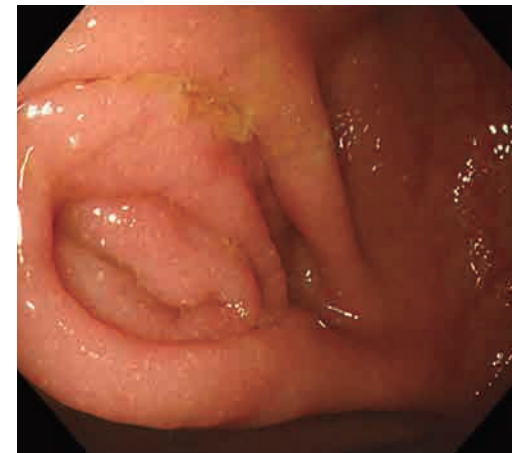
2 肛門縁まで炎症の連続する典型例



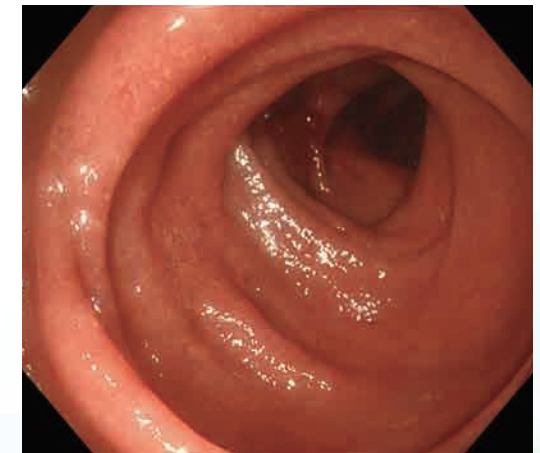
3 粘膜浮腫・うっ血所見が目立つ症例



4 S状結腸で正常部分と鮮明な境界を呈している症例



5 左側腸炎型患者の虫垂開口部に炎症がみられた症例



6 正常部との境界が不鮮明な症例

内視鏡所見

- 直腸から連続した全周性の炎症や、粘液の付着、発赤・粘膜浮腫、血管透見の消失、接触出血、非炎症部との境界が明瞭なことも、不明瞭なこともある。
- 左側腸炎型では、虫垂開口部に skip (離れて存在) した炎症所見がみられることがあり、確定診断の一助となる。

疾患概念

- 潰瘍性大腸炎 (UC) は、比較的若年者に発症する慢性持続型の大腸の炎症性疾患であり、下痢や血便を主症状とする。
- 原因は不明であるが、免疫機能の異常による自己免疫疾患である。
- 厚生労働省の難病に指定されているが、わが国での患者数は20万人程度と推定され、指定疾患のなかでは最も多い。
- 病勢コントロールのため、生涯治療継続が必要とされている。

memo

潰瘍性大腸炎という疾患名であるが、潰瘍は重症になるまで生じない。

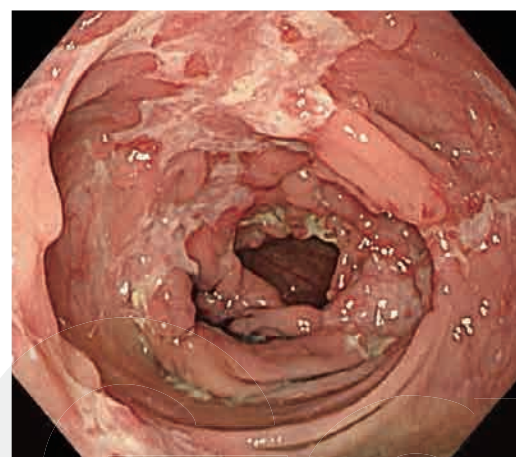
2-1 クローン病 (典型例)

Key Words

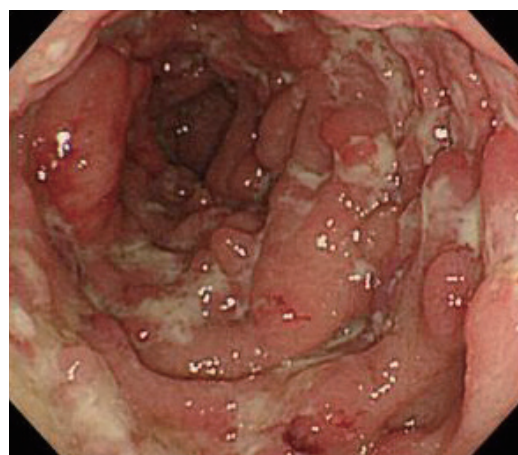
縦走潰瘍 / 敷石状外観 / 全層性炎症 / 回盲部 / 肛門病変



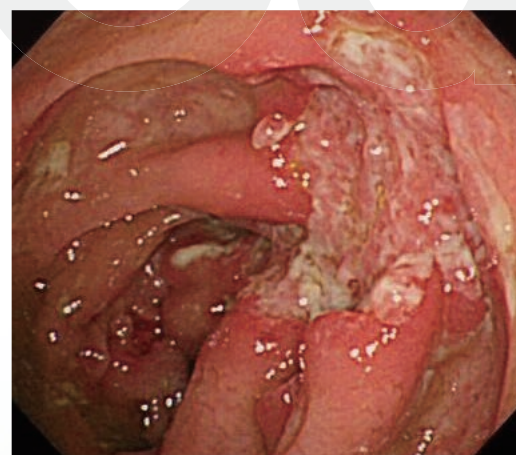
1 縦走潰瘍・敷石状外観



2 縦走する不整形潰瘍



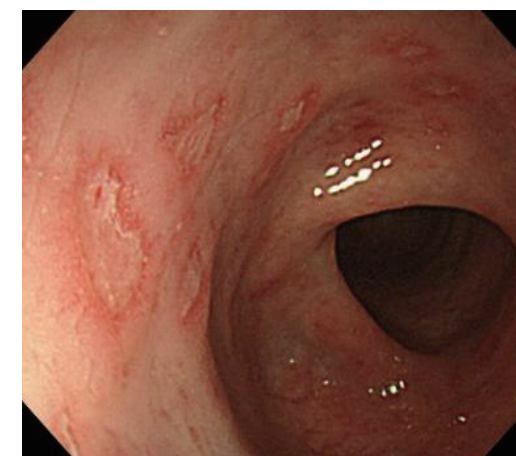
3 縦走する不整形潰瘍・敷石状外観



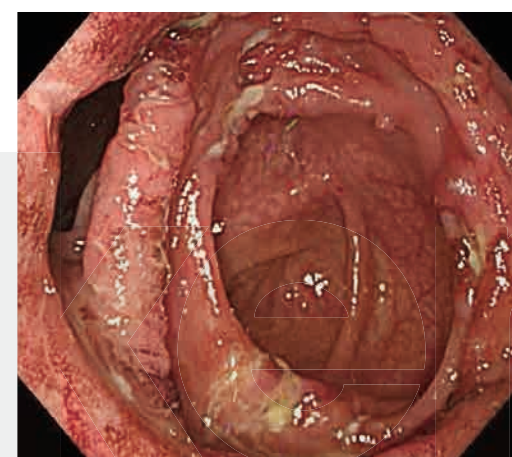
4 不整形・類円形潰瘍①



5 不整形・類円形潰瘍②



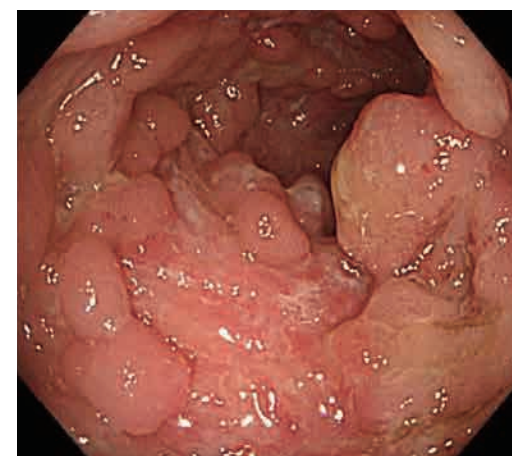
6 アフタ性病変



7 パウヒン弁の変形



8 直腸・肛門部の病変



9 終末回腸病変